

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP) について

1. 東アジア・オーストラリア地域フライウェイ (EAAF) (別紙2参照)

渡り鳥の主要な渡り経路 (フライウェイ) として世界には9つのフライウェイの存在が知られています。東アジア・オーストラリア地域フライウェイ (EAAF) は、北はアラスカからロシア東部、シベリアにかけての地域から、日本や朝鮮半島と中国東部を通り、東南アジア、ニューギニア、オーストラリアからニュージーランドへかけての地域で、渡り鳥の保全上特に重要なフライウェイと認識されています。

2. 東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP)

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ下の国々や渡り鳥を保全する取組を行っている人々が協力するための枠組が東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ (EAAFP) です。現在30の国や団体が参加し、渡り鳥の生息状況や保護活動について、情報や技術の交換を行っています。



EAAFP ロゴ

3. 重要生息地ネットワーク

EAAFPでは、渡り性水鳥の重要な生息地が重要生息地ネットワークを形成しています。現在113か所、日本国内では30か所の生息地がこのネットワークに参加しています (別紙3参照)。

なお、日本では、種群ごとに生息している場所や保全活動内容が異なることが多いため、シギ・チドリ類、ガンカモ類、ツル類の3つの種群ごとに重要生息地ネットワークを作っています。

4. 参加主体 (31主体)

- 関係国政府 : 豪州、日本、米国、ロシア、韓国、インドネシア、シンガポール、フィリピン、カンボジア、中国、バングラデシュ、タイ、モンゴル、ニュージーランド、マレーシア (15カ国)
- 国際機関等 : ラムサール条約事務局、CMS事務局、FAO、CAFF、CBD事務局 (5機関)
- NGO : IUCN、WI、WWF、BLI、国際ツル財団、豪州シギ・チドリ類研究会、日本野鳥の会、WWT、ミランダ・ナチュラリスト協会、WCS (10団体)
- 企業 : リオ・ティント (1社)